



# 千葉労働動向

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

92.1.20 No. 3525



200名をこえる結集で、決意も新たにガンバロー

## 3月ダイ改阻止へ 闘争宣言を発する

### 1/14 団結旗びらき 盛大に開催



九二年団結旗開きは、激動の九〇年代がいよいよ本場の激流の只中に入った事を象徴した九一年の全てを受けて、動労千葉が主張してきた自前の労働運動の真価をかけたものとして、千葉県労働者福祉センターにおいて開催され、組合員・家族・OB、さらには数多くの来賓の方々を迎え、とりわけ「フューチャー21」HJR東鉄道部門五万人体制との最初の対決の場となる、「九二・三ダイ改」阻止へ向けた闘争宣言の場として大成功を勝ちとった。

席上、主催者を代表して年頭あいさつに立った中野委員長は、力強く決意を述べた(別掲)。また支部を代表して五十嵐千葉転支部長、佐藤家族会長、日暮OB会事務局長がそれぞれ決意を述べた。

一部・二部を通じて、県労連センター・広田事務局長、県交運・岡野事務局長、社会党・赤桐参議院議員、反対同盟・北原事務局長、顧問弁護団・葉山弁護士、など多くの方々から連帯のあいさつを受け、二部でのカラオケ大会などを含め、相互の親睦と闘いへの決意を固めた。

「九二・三ダイ改」は、「時短」でありながら全職種で要員合理化がなされるなど、大変な労働強化の提案となっている。

全力をあげて、「JR五万人体制」を許さない闘いへ決起しよう。

#### 中野委員長あいさつ

(要旨)

歴史的に見ても二十世紀という時代の中で重大な節目の年であった九一年は、戦後支配体制をつくってきた仕組みが崩壊し、それが平和と安定に向かうのではなく、分裂と激動、戦争と革命の時代として、世紀末の様相を事実として示した。今年九一年を上回るものとなる。

日本の場合、世界の激動をモロに受ける国であり、昨年一年間、体制をかけてかけられてきた小選挙区制・PKO法案との対決は、労働者がどう闘っていくのか、どのように生きていくのか問われたと言えらる。

JRをめぐる攻防も一つの節目を迎えている。JR発足五年目でJR総連が分裂し、その動きは東日本にもヒタヒタと押し寄せている。現象としてJRの労務管理体制の再編過程に全体が叩きこまれたと言ったことであり、われわれも組織の存亡をかけたものとして見なければならぬ。

長期債務の解消を理由とした分割・民営化の矛盾はいたるところで露わになっている。土地・株売却を前提とした財政再建策は、バブル経済に立脚した不真面目なものであった。であるがゆえに、いまや分割・民営化がどうにもならなくな



つたと言ったことだ。

たとえば貨物会社は、旅客会社の線路を借りて営業している。そのシェアは日本全体の二割でしかない。物流面から見れば二十、三十%にしなければならぬが、会社間を線路を借りて運行しているという分割した弊害がはつきり出ている。以上の点を見れば労務政策の大再編ということが不可避でもある。

動労千葉は、この十年間四十名の解雇者、現在でも七十名にも及ぶ強制配転者を出しながら歯をくいしばって労働者の魂を貫いてきた。

労働者をめぐる環境は、戦後最低の労働条件―過労死という言葉に象徴されるように、労働組合がその使命を果たしていないということだ。われわれは、職場を基礎に団結を固め、まじめに運動を作りあげていくしかない。動労千葉はもとより、労組交流センター、反戦共同行動委員会の強化を目指して闘う。

とりわけこの三月にも判決が出るであろう解雇公判一審判決、三月ダイ改阻止闘争、JR五万人体制阻止の闘い、沖縄返還二十周年、PKO反戦闘争、七月参議院選挙闘争と、この半年間を精一杯闘い抜いていきたい。